

平成 29 年度
新 城 市
中 学 生 議 会

平成30年2月5日 午後1時30分～

新城市議会 議場

竹内日菜乃議長

私は、本日議長を務めます、作手中学校2年、竹内日菜乃です。

平成29年度新城市中学生議会を開会する前に、今回このような機会を与えていただきました穂積市長、和田教育長にお礼を申し上げます。

また、本日は、新城市議会の皆様におかれましては議場の使用を許可していただき、ありがとうございました。

私たちは市内の中学生として、この新城市がもっと魅力あふれる市となるよう、今の新城市の状況や皆さんが思っていることを知りたいと思います。そして、新城市の未来が明るく過ごしやすい場所になるように、質問、提案をしてみたいです。真剣に考えた質問や提案ばかりですので、よろしく願いいたします。

ただいまから、平成29年度新城市中学生議会を開会します。

一般質問を行います。本日の質問形式は、学校ごとに質問席に移動して行うこととします。

一般質問の通告者及び質問の順序は、お手元に配付の一般質問順序表のとおりです。発言順は、あらかじめ中学生議会担当教諭会議により決められたものです。

発言するときは、議長と呼び、議長の許可を得てから発言を行うよう、お願いします。

一つの中学校につき、移動時間を含めた持ち時間は20分間です。

なお、各学校の質問と答弁の終了後に、その学校の質問に関連することや、わからなかった点について質問がある場合は、手を挙げてからその場で起立し、発言をしてください。

また、発言は、質問者、答弁者とも簡潔明瞭をお願いします。

最初の中学校は千郷中学校です。千郷中学校の皆さんは、質問席に移動してください。

(千郷中学校議員 質問席に移動)

竹内日菜乃議長

質問は3名続けて行うことを許可します。最初の質問者、清水大夢さん、森下晃揮さん、河合来桃さん。

清水大夢議員

千郷中学校2年の清水大夢です。

私たちは、新城市の税収アップにつながるアイデアを提案させていただきたいと思います。

私の身の周りでは、市の税金の使われ方に対して疑問を持っている人の声がよく聞かれます。税金の使い方については検討を十分重ねてくださっていると思いますので、ここでは質問を控えますが、税収をふやすための手だてについて提案させていただきたいと思います。

新城市の人口は、決して多いとは言えない状況です。そこで、根本的に人口をふやせないかと考えました。私たちが調べたところ、ある市では行政が取り持っていて、空き家を田舎に移住したい人に安い値段で提供するという事例があるそうです。私の住んでいる千郷地区にも、空き家になって使われていない場所が何軒かあります。そうした資源を活用し、税収をふやすことはできないでしょうか。移住者がふえれば人口がふえ、結果として税収

入がふえると思います。

森下晃揮議員

千郷中学校2年生の森下晃揮です。

新城市について知らない人が、日本国内ですら、たくさんいます。そこで、まずは新城市について知ってもらうために、各地のデパートや公園などでアンテナショップを展開し、新城市についてプレゼンしたり、特産物を販売したりするのはどうでしょうか。新城市外へ販売を広げたいと思っている業者などに予算を与え、どんどん新城市のよいものを各地で販売するように支援していくことで、新城の名前がブランド化し、結果として人が訪れたいくなるのではないのでしょうか。いずれにしても、まずは多くの人に新城の名前を知ってもらうことが大切だと考えています。

河合来桃議員

千郷中学校2年の河合来桃です。

人口をふやすもう一つの方法として、私はアウトレットを誘致してはどうかと考えています。

私は、岐阜県の土岐プレミアムアウトレットや栃木県の佐野プレミアムアウトレットについて調べました。アウトレットモールだけで、年間およそ600万人の買い物客が訪れているそうです。これは、新城市の年間観光客数の約2倍です。また、県外からの来客が多く、周辺商業施設へも効果が波及しているそうです。

新城には広大な土地が眠っており、新東名高速道路も開通しました。新城市周辺には大きな複合施設がないため、買い物を目的とした市外、県外からの人が集まり、経済も活性化されると考えています。さらに地元の雇用もふえ、結果として人口の増加につながるのではないのでしょうか。すぐには実現できそうもない提案だと思いますが、市として何か人口増加につながる手だてを講じていらっしゃるならば、お聞かせいただきたいと思います。

竹内日菜乃議長

小笠原建設部長。

小笠原建設部長

それでは、1問目の空き家の利用について、お答えさせていただきます。

市内には、約1,000軒の空き家があります。市では、これらの空き家を有効に利用するために空き家バンク制度というものをつくりまして、27年度につくりました。市のホームページを使って情報の提供を行っております。現在の登録状況は、空き家を売りたい、貸したいという件数は28件、空き家を買いたい、借りたいという方は56件登録されております。その中で契約が成立したのは10件であります。また、この空き家バンクに合わせて空き家を改修しようという方には、改修に必要な修繕を行う費用について補助を行う制度もつくっております。

以上です。

竹内日菜乃議長

古田産業振興部長。

古田産業振興部長

私からは、2点目のアンテナショップの展開についてと、3点目のアウトレットの誘致について、順次お答えさせていただきます。

まず1点目のアンテナショップの展開ですけれども、新城市の観光PRや特産品販売のため、これまで東京スカイツリーを初め、都内の主要ターミナル駅、名古屋市内の鉄道駅、デパートでのPR活動も展開してきました。こうした活動は、週末を中心に長くても1週間程度のもので、常設ではなく、短期間の開催となっております。アンテナショップは、人口の集中する大都市圏、特に首都圏において出店が盛んで、少し以前のデータですが、東京都内には、主要ターミナル駅周辺や繁華街に、全国の道府県、市町村から約50店が出店し、今も増加傾向にあるといわれています。東三河地域でも、平成28年度に東三河広域連合が事業主体となって、都内2か所においてアンテナショップの実証実験を行っています。新城市では、この実証実験に湯谷温泉関連グッズや特産品の緑茶を出品していますが、現在のところ、東三河地域全体として都内への常設のアンテナショップ出店は実現をしていません。こうした中、新城市では、次年度から高速バス「山の湊号」の停留所のある地下鉄藤が丘駅周辺で、常設のアンテナショップ設置に向けて検討をしています。

次に、3点目のアウトレットの誘致です。調べられた二つの施設とも、大都市圏域から車でおおむね1時間、高速道路インターチェンジ直近のアウトレットモールで、立地条件は新城市とよく似ています。そうしたところから、新城市にもと期待することは当然だと思います。しかし、立地条件が似ているからといって、それだけでアウトレットモールが進出するかどうかは、また違ったさまざまな課題があります。

新城市でもアウトレットモールの誘致についても検討しましたが、最も大きな課題は、他のアウトレットモールと競合することです。高速道路での移動時間90分を目安に整備しますと、岐阜県土岐市は当然ですが、東側では静岡県御殿場市、西側でも三重県桑名市長島町の日本を代表する二つのアウトレットモールも競合関係になり、そのほぼ中間点である新城市において他地域からの来場を見込むには、ほかにはない相当の特徴や魅力を打ち出せるものでなければ、集客や経営は難しいということです。さらに、まとまった用地確保や地元での雇用などの面から、アウトレットモール等の大型商業施設の立地は難しい状況であると考えています。このため新城市としては、製造業や物流業を初めとする企業誘致や既存の市内企業を支援することで、雇用を安定、拡充させ、定住人口につなげていきたいと考えています。そのために、新城南部企業団地への企業誘致促進のほか、新城インター周辺地区に新たな企業団地の開発に取り組んでいるところでございます。

以上です。

竹内日菜乃議長

松本企画部長。

松本企画部長

私からは、人口増加につながる手だてについて、お答えをします。

日本は 2008 年から人口減少時代に入りました。新城市の人口は、それよりも早くから減少しています。そして、日本全体の人口はこれから減り続けます。そうした状況において重要なことは、人口が急激に減少しないようにすることです。新城市は、住みやすい、働きやすい、子育てしやすいと思える暮らし環境を整えて、人が、地域が輝き、魅力あふれる地域にならなければならないと考えています。そのための手だてですが、人が、地域が輝くために、若者議会のように若者が活躍できるまちを目指した事業を行っています。この中学生議会も、その一つです。

また、国際化時代に対応した人材を育てる事業や、女性の働きやすい環境を整える事業、子育てを応援する事業などを進めています。平成 28 年度からは、通勤、通学、観光の利便性向上を目指して、新城から名古屋直通バスの運行を開始しましたので、ぜひ御家族と一緒に御利用ください。提案していただいたアンテナショップも、名古屋の藤が丘で検討を進めております。このほかにもまだありますので、将来人口予測ですとか、いろいろ授業に必要であれば、いつでも説明に伺いますので、お声をかけてください。お願いします。

竹内日菜乃議長

清水さん、森下さん、河合さんの質問が終わりました。

次に、2 番目の質問者、山田虹花さん、大久保英哉さん、中川大輔さん。

山田虹花議員

千郷中学校 2 年の山田虹花です。

私は、新城市を観光よりも体験をメインにした、そして日本人よりも外国人観光客をターゲットとした「リトル・ジャパン in Shinshiro」を提案します。

私は中学生議会の参加を通して、新城市観光基本計画アクションプランという計画書に出会いました。そこには、新東名高速道路やもつくる新城の開業によって、観光振興の成果があらわれ始め、観光客数も平成 27 年度は 300 万人を超える数になったと書かれていました。私は、新城市が注目されている今がチャンスだと考えます。私がここで提案するのは、頭打ちになっている日本人観光客をターゲットにするよりも、外国人観光客をターゲットに絞り、日本の文化、芸能を見るだけでなく、実際に体験できるイベント、「リトル・ジャパン in Shinshiro」です。

大久保英哉議員

お昼のニュースのお時間です。さて、新城市で何やら楽しいイベントが行われているようです。現場を呼んでみましょう。現場の中川さん。

中川大輔議員

はい。レポーターの中川です。

私は今、新城市で開催されている「リトル・ジャパン in Shinshiro」に来ています。「リトル・ジャパン in Shinshiro」では、外国人観光客に向けて多くの体験を用意して

います。着物着つけ体験、武将甲冑試着体験、火縄銃体験、農業体験、歌舞伎体験、手筒花火体験、中学生・高校生の制服試着体験、柔道体験、剣道体験、弓道体験、無限のパビリオンがあなたを待っている。新城に来れば、日本の全てがあなたの手に。日本人体験なら新城市で。「リトル・ジャパン in Shinshiro」は、毎週日曜日、桜淵公園で開催。お待ちしております。

大久保英哉議員

ありがとうございました。とても楽しそうなイベントでしたね。

これで、お昼のニュースを終わります。ありがとうございました。

山田虹花議員

このようなCMを英語でつくって、インターネットなどで配信してみたらどうでしょうか。武将観光であれば、清州城の甲冑試着体験が有名ですし、着物であれば、京都などが有名でしょう。しかし、一つの場所でこれだけたくさんの体験ができる場所は、まだないのではないのでしょうか。幸い新城市は、伝統や文化を大切にしてきた市です。外国の方の興味を引く伝統や文化があふれています。あわせて、地域の特産物なども売り出せば、新城市の宣伝も同時にできると考えます。これが実現すれば、こうした知識や経験を持った方たちの雇用を促進することができるはずです。

では、私たち中学生に何ができるのでしょうか。以前、中学生がつくった英語の観光ガイドや案内板が旅館で使われ、外国人観光客に好評だったというニュースを見たことがあります。こうした例を参考に、私たち中学生も日ごろの学習を生かす場として、そして新城市を盛り上げる一員として、外国の方に触れるチャンスがふえるのであれば、こんなにうれしいことはありません。ぜひ検討をよろしくお願いします。

竹内日菜乃議長

古田産業振興部長。

古田産業振興部長

ありがとうございました。

新城市については、平成 28 年中の市内の年間外国人宿泊者数は 500 人弱で、外国人観光客については、まだまだ少ないのが現状です。観光ガイドブックの多言語化や、英語版観光PR動画をYouTubeに投稿するなどの取り組みを行っていますが、外国人誘客のためには、さらに積極的なインバウンド対応を図る必要があるものと考えています。

御提案いただいた「リトル・ジャパン in Shinshiro」は、市内にある伝統的な文化を海外からの観光客に体験していただくことができるとともに、外国人観光客と市民が交流することができる機会にもなるもので、皆さんに考えていただいた多くの体験メニューは大変おもしろいアイデアであると思います。

また、新城を含む4市町村で組織する奥三河観光協議会では、それぞれの場所で実体験できるメニューを網羅した「たあ〜んと体感 奥三河」を進めています。こうした体験メニューも外国人観光客に十分理解して受け入れられるよう、磨き上げも必要だというよ

うに考えております。幸い本年 10 月には、世界ニューキャッスルアライアンス会議が開催され、外国から数多くの方々が新城を訪れます。市内の伝統文化を理解し、体験し、発信することで、これを将来につながる外国人誘客の絶好の機会として捉え、「リトル・ジャパン in Shinshiro」を実施することも検討させていただきますので、ぜひ御協力をよろしくお願いいたします。

竹内日菜乃議長

山田さん、大久保さん、中川さんの質問が終わりました。

ただいまの千郷中学校の質問に関連することや、わからなかった点について質問がある場合は手を挙げてください。

新城中学校、松井萌恵さん。

松井萌恵議員

大型商業施設の建設費用について、概算でどのくらいの費用が見込まれているのか教えていただきたいです。よろしくをお願いします。

竹内日菜乃議長

古田産業振興部長。

古田産業振興部長

大型商業施設の建設費用について概算でどのくらいの費用が見込まれているのかということですが、新城市は大型商業施設を建設する計画は現在持っておりません。また、そのために費用の試算というものも行っておりませんので、民間企業が商業施設を建設する場合の一般的なお話をさせていただきます。

商業施設自体の建築費は、その構造や階数、各店舗の内装工事や照明設備などを含めるかどうかによっても異なりますけれども、一般的には1平方メートルあたりの建築費は20万円から30万円というようにいわれています。最近では、震災復旧事業やオリンピック関連の工事がふえ、建設資材の値上がりや建設技能者の人手不足から一段と高額になっているといわれています。仮に店舗や通路を含む建築面積が1万平方メートルの大型商業施設を想定し、1平方メートルあたりの建築費を一般的な建築単価の中間額である25万円というように見込み、試算しますと、この施設の建設費は25億円になります。

また、千郷中学校の生徒さんが調べられた土岐市や佐野市のアウトレットモールの店舗面積は、いずれもおおよそ3万5,000平方メートルですので、現時点で同じ規模の施設を建築しようとしたら、約90億円の費用が必要となるとそのように試算できます。

さらに、大型商業施設には、施設自体の建築費だけでなく、ほかにもさまざまな費用が必要となってきます。特に建物が建つ敷地だけでなく、周辺に大きな駐車場も確保しなければなりません。この用地を取得する費用も追加されますので、アウトレットモールやショッピングモールのような大型商業施設を整備するには、大変大きな費用が必要になるということでもあります。

以上です。

竹内日菜乃議長

新城中学校、松井萌恵さんの質問が終わりました。

時間になりましたので、以上で千郷中学校の質問を終了します。

(千郷中学校議員 自席に)

竹内日菜乃議長

2番目の中学校は作手中学校です。作手中学校の皆さんは、質問席へ移動してください。

(作手中学校議員 質問席に移動)

竹内日菜乃議長

質問は2名続けて行うことを許可します。質問者、鈴木彩音さん、牛田珠裕さん。

鈴木彩音議員

作手中学校の鈴木彩音です。

愛知県の市の中で唯一の消滅可能性都市である新城市、その中でも私たちが暮らしている作手地区では、人口減少と人口流出が大きな問題となっています。7年前にはおおよそ3,000人いた作手地区の人口も、2017年の12月時点では2,526人に減少しています。私たちが大人になる数年後には、一体どうなるのでしょうか。地元で生きる私たちにとっては、将来、不安しかない切実な問題です。

私たちの作手中学校は、全校生徒が50人です。こちらをごらんください。

4年前の平成25年度では、どの学年も20人以上生徒がいました。しかし、今年度の中学3年生を最後に、20人を超える学年がなくなります。今の作手小学校の1年生は、何とたったの6人です。また、進学を機にほかの地区へ転出してしまう家庭もあり、さらに子どもの人数が減っていくことが予想されます。実際に今の中学2年生も、中学校進学を機に3人減りました。

新城市の掲げる「新城市人口ビジョンおよび総合戦略の策定について」を読み解くと、新城市からの転出者の理由として最も多い事柄は、職業上のことでした。また、産婦人科が病院にないことなど、人口流出の原因が分析してありました。雇用の問題、子育ての問題など、新城市で暮らしていくことに心配をしている地元出身者も多くいます。地域の方の話の聞くと、大人になると作手から出ていってしまうから、帰ってきてほしいと話していたことが心に残っています。

作手地区の小学校は数年前まで、巴小、開成小、菅守小、協和小とありましたが、今は新しく建設された作手小一つです。それにかかわる建設費用は、数億円を超える予算が使われたと聞きました。ですが、今、使われていない三つの小学校は取り壊すのにもお金がかかるので、そのままになっている状態です。それに加え、新しい作手小学校では、すでに雨漏りをしていると聞きました。市が掲げるしんしろ創生には、「住みやすい、働きやすい、子育てしやすいと思える暮らし環境を整え、安心し、心豊かに暮らすことのできるまちをつくる」と書いてありました。また、「その時々課題を次の世代に先送りすることなく、新城市にかかわる全ての人々と議会と行政が一体となって創意工夫し、今やるべきことに大胆に着手する。その結果が、人が、地域が輝き、新城市の未来が明るく開か

れたものになる。これが、私たちの果たすべきしんしろ創生です」と力強く書いてありました。

私たちは今、とても不安で、心配です。その時々課題である作手地区の人口流出に歯どめをかけ、また作手地区の活性化のために、具体的にどのようなことをされているのか教えてください。

牛田珠裕議員

作手中学校の牛田珠裕です。

作手地区の人口流出については、先ほど述べさせていただいたとおりです。私からは、中学生の意見として、作手に人をふやす、まずは作手に来てもらうための提案をしたいと思います。

作手で一番人が集まる場所を御存じでしょうか。それは、道の駅手作り村です。手作りの村の直売所を訪れる人は、1か月でおよそ5,000から6,000人です。作手の五平もちが1年で約6万本も売れるそうです。手作り村を訪れる多くの方は、地元で暮らす人だけでなく、ほかの地域から作手を訪れる人たちです。その多くは、自転車、ロードバイクを楽しみたい人で、夏には1日100台以上ものロードバイクが並びます。県内や浜松から、わざわざ訪れる人も多いです。岡崎から来た方にインタビューをしたところ、「作手には数え切れないほど来ている。自然がいい」と答えてくれました。また、豊橋から来た方は、野菜を買う。景色がいい」と言っていました。バイクで来た浜松の方は、「年に二、三回は作手に来る。作手の道を走っていて気持ちがいい」と話していました。

このように、手作り村には、自転車やバイクで訪れる人がたくさんいます。この7年でおよそ400人の人が離れていた作手地区の活性化のために、この状況を積極的に利用すべきだと考えます。人が訪れない地域をゼロから何とかするのは大変ですが、作手にはこれらの人たちが訪れるという好条件があります。手作り村で働いている方も、もっと作手に来てもらいたい、作手の観光スポットを聞かれるが、うまく伝えられないと言っていました。

そこで、昨今の健康ブームにもあやかり、ロードバイクで作手をさらに活性化させることを提案します。より多くのロードバイク愛好家、健康志向の方を作手に呼び込むために、行きたくなる作手を観光地化するとよいと思います。人気の高い自転車レースの漫画「弱虫ペダル」とコラボレーションして、イラストの看板を作手の道沿いに立てることができれば、流行語となったインスタ映えがして、訪れる人がふえるのではないのでしょうか。また、ツール・ド・新城の作手コースをつくることや、山道を利用してマウンテンバイクのオフロードコースをつくることを提案します。

2018年度税制改正森林環境税導入などで、現在、林業の重要性に注目が集まっています。作手中学校では、学校林があり、地元の産業であった林業について学習しています。新城林務課の方々には、毎年お世話になっています。そこで、山を間伐し、そこにアスレチックをつくることもいいと思います。間伐した木材でアスレチックの遊具をつくります。子どものいる家族が、休日に作手のアスレチックに行きたいと思える場所をつくることができます。夏は涼しく、秋には美しい紅葉があり、巴湖ではカヌーを楽しむことができる作手の自然をもっと生かすべきだと考えます。自転車やバイクの愛好家、また子ども連れ

の家族が訪れたいくなる作手にするために、これら二つの視点から提案いたします。御検討をお願いします。

竹内日菜乃議長

穂積市長。

穂積亮次市長

2人から、作手の将来についてのいろいろな思いのこもったお話を聞きました。まず、最初の鈴木さんのお話の中で、作手の小学校4校から1校への統合の話がありましたが、それを例にとって私の考えるところを少しお話しします。

作手の小学校4校統合は、もちろん生徒数が減ってきて、一つの学校だけでは学校運営、多くの集団活動ができなくなったことにも起因していますが、同時に、四つを一つにするというのは、単に人口が、子どもの数が減ったからやむなく四つを一つにしたというではありませんでした。作手の地域の住民の皆さんが学校の統合ということの一つのきっかけとして、また新しい作手地区をつくっていきこう、そういう気持ちから新しい施設としてついで交流館を含めた新しい小学校の建設をして、そして、それが今、見事に花を開いています。そういう意味で、人口減少をして厳しいという面とともに、これからの時代を見据えて、新しい価値観を我々がつくっていくんだ、それを作手をフィールドにしてつくっていくんだという気持ちをあらわして、まちづくりをしてきたと思います。そういう意味では、作手地域の皆さん、新城市民の皆さんの期待は、君たちや、その後に生まれる世代たち、そうした若者たちにかかりながら、そして、その皆さんがしっかりと活動ができるような環境を整備していく決意を持ってまちづくりに取り組んでいます。牛田さんのおっしゃったロードバイク、あるいは森林環境を生かした地域づくりも同様です。作手の手作り村のにぎわいのお話をいただきましたけれども、確かに今、作手には、新しい移住者、あるいは新しく農業を始める人たちが外からどんどん来ています。あるいは、別荘地も生まれています。数年後には、岡崎市の境のところに日本最大級のトヨタ自動車のテストコース研究施設ができてきます。そこでは、5,000人からの方々が毎日働きに訪れるといいます。そういう新しい可能性をチャレンジしていくことこそ、これからのまちづくりで、その意味で、今、お二人に提案していただいたこと。また、ロードバイクは、2026年アジア大会というのが愛知県で開かれますが、そのアジア大会の自転車競技の部が奥三河地域を舞台にして開催できるように、今、市も一生懸命頑張っているところです。将来に希望を持って、皆さんと一緒にまちづくりができればいいと思います。

竹内日菜乃議長

松本企画部長。

松本企画部長

それでは、作手地区の人口流出に歯どめをかける具体的な事業ということで、今、市長からも話がありました作手小学校ですとか、作手の総合整備事業、これにはたくさんの作手の皆さんに参加していただきましたので、これは一つ、活性化につながることはな

いかというように思っています。このほかにも、作手の中でおいしい農作物を使ったレストランの運営ですとか、あとは地域おこし協力隊がそれをやっていただいておりますし、また作手の気候を利用して、農業をしっかり頑張ってもらう若者の受け入れとか、そういったものを具体的に行っております。

竹内日菜乃議長

古田産業振興部長。

古田産業振興部長

御質問の中にありましたロードバイクによる作手地区の活性化について、少し詳しく御説明をさせていただきます。

新城市では、地域活性化の一つとして、サイクルツーリズムの推進を図っています。市内に交流人口を呼び込むため、サイクリングと地域内の歴史、自然、観光を結びつけ、単にスポーツイベントの開催だけでなく、その後にリピーターとして何度も新城を訪れてもらう仕掛けを検討し、実施しております。

作手地区では、昨年7月には鬼久保ふれあい広場を会場として、プロのロードレースチームが主催する自転車ロードレースAACAカップを市内で初めて開催し、多くのロードバイク愛好家が出場しました。引き続き次年度以降も継続し、自転車ロードレースの魅力を感じていただくとともに、自転車競技の発展、スポーツによる地域振興に取り組んでいきます。また、競技開催と同時に、小学生向けの自転車講習を実施することで、安全な乗り方を身につけていただいて、自転車をもっともっと好きになってもらいたいと考えています。現在、サイクリングマップの作成や、プロ選手と一緒に回るサイクリングツアー等を検討しており、今後も自転車の魅力を生かした地域活性化の仕組みを提案していきたいと考えています。今でも作手地区には、週末を中心に多くの自転車愛好家が集っています。こうした愛好家の方が立ち寄る店舗やスポットには、サイクルスタンドなどを設置し、誰もが安心して楽しむことができるよう、地元の方の協力もぜひお願いしたいと考えています。

竹内日菜乃議長

鈴木さん、牛田さんの質問が終わりました。

次に、2番目の質問者、直井俊輔さん。

直井俊輔議員

作手中学校の直井俊輔です。

新城市をPRするための提案をしたいと思います。

新城市を代表するゆるキャラといえば、そう、のんすけです。さまざまなイベントでのんすけが頑張っている姿を見ます。そののんすけは、背中にかごを背負っています。かごの中には、地元新城のおいしい野菜が入っています。そこで、その野菜を使っのんすけ野菜ジュースをつくるのはどうでしょうか。ただの野菜ジュースではなく、作手味、新城味、鳳来味など、興味を引くネーミングをつけます。例えば作手味には、作手の有名な

トマトを使ったりと、それぞれの地区の特徴を出すことができます。意外性があると、ネットではコメントが多くなり、話題になって新城に注目が集まると思います。また、間もなく新設される有教館高校に協力してもらい、専門学科の食品加工にかかわってもらえば、有教館高校のPRにもなります。野菜ジュースを食事の初めに飲むだけでやせられるダイエット方法があります。現在の健康ブームに乗り、新城市のPRのためにのんすけ野菜ジュースをつくることを提案します。

本日欠席の横山にかわり、もう一つ提案させていただきます。

先ほどから健康志向のブームについて話題を出させてもらっています。実際にテレビでは健康番組が多いです。調べてみると、ある週では1週間に26もの健康番組が放送されていました。ある番組では、病院のお医者さんが最もお勧めする健康食材について紹介していました。どのような食材だと思いますか。1位はトマトです。そして、2位はヨーグルトです。私たち作手地区はトマトで有名です。りんか409という、おいしいトマトがあります。手作り村では、トマトのソフトクリームも販売するほどです。さらに、作手地区には酪農を営んでいる家庭も多いです。クラスメイトも酪農家の子どもです。新鮮な牛乳からおいしいジェラートをつくって販売している家もあります。健康食材1位と2位が、作手の特産品とばっちりかかっているのです。そこで、作手の活性化のために、作手のトマトと酪農家で協力し、トマトヨーグルトジュース、作手トマグルトをつくることを提案します。道の駅の手作り村には加工施設があると伺い、実際に実現可能な意見だと考えています。御検討をお願いします。

竹内日菜乃議長

古田産業振興部長。

古田産業振興部長

のんすけ野菜ジュースと作手トマグルト、2点、御提案がありましたので、それぞれ御答弁をさせていただきます。

まず1点目ののんすけ野菜ジュースですけれども、新城の野菜生産に関して最も力を注いでいるのは、市域の気候や風土を生かし、皆さんの祖父母の代から産地として築き上げてきた品質の高い苺とトマト、そして、これから産地を築き上げようとするハウレンソウの三つの品目を重点作物としております。また、この産地づくりに携わってくれる新規就農者を全国から募集していることです。今後、こうした産地づくりを進める中で、農業者等が農産物の生産から加工、販売までを一体的に取り組む、いわゆる6次産業化において、ジュースの原材料を全て市内産とするのは難しいかもしれませんが、提案されたのんすけ野菜ジュースが新城市の特産品をPRする手段になるかもしれません。今回の提案にとどまらず、ぜひ農産物の生産のほか、加工、販売、流通などについて学んでいただいて、新城市のPRに貢献していただけるよう期待をしています。

2点目の作手トマグルトですけれども、トマトやヨーグルトは健康食品として非常に注目度の高い食品であると認識しています。作手産のトマトは夏場における朝晩の気温差の大きい高原地域の特性を生かしたもので、高い評価を得ています。生産されたトマトは、JA愛知東を通じて出荷するほか、つくで手作り村の味彩館では、ハヤシライスやトマト

ジュースとしてお客様に提供しています。

一方、ヨーグルトは、家庭で容易に自家製をつくることはできますけれども、販売目的でヨーグルトを製造するには、原料となる生乳を受け入れる設備、殺菌、発酵、カップやびん詰め、原料や製品を検査する設備など、さまざまな設備が必要となります。手作り村に加工施設はあっても、ヨーグルト製造に必要な設備はありませんので、新たな設備が必要となるとともに、製造に携わる人手、それから実際の商品の販売価格のほか、その商品に対する消費者のニーズがあるかどうかも見極めた上で開発に着手というような形になります。

しかしながら、作手地域には、ヨーグルトは手がけていませんが、生乳生産からチーズやジェラートなどの加工販売に取り組んでいる酪農家もいます。こうした中にも、ヨーグルトやトマグルトに関心のある方もお見えになりますので、事業として採算性があるのであれば具体的に商品化されることも十分に想定できます。また、現在手作り村で提供されているトマトジュースが持ち帰り販売ができるようになり、また、6次産業化に取り組んでいる酪農家がヨーグルトを製造できるようになったときに、二つの商品を合わせて家庭で手軽につくることのできる作手トマグルトを提案するのも一つの方法ではないかというように考えております。

以上です。

竹内日菜乃議長

直井さんの質問が終わりました。

時間になりましたので、以上で作手中学校の質問を終了します。

(作手中学校議員 自席に)

竹内日菜乃議長

3番目の中学校は鳳来中学校です。鳳来中学校の皆さんは、質問席へ移動してください。

(鳳来中学校議員 質問席に移動)

竹内日菜乃議長

質問は3名続けて行うことを許可します。質問者、石野李織さん、渋谷凌央さん、夏目くる美さん。

夏目くる美議員

鳳来中学校の夏目くる美です。

私たちは、新城市民駅伝大会について提案します。

現在、日本のランニング人口は1,000万人といわれています。愛知県では、2005年から市町村対抗駅伝が始まりました。また、2015年から名古屋市で企業対抗駅伝が開催されており、多くの企業が参加しています。このことから、駅伝というスポーツの人気がわかると思います。

石野李織議員

同じく鳳来中学校の石野李織です。

新城市では、新城マラソンや新城トレイルを行っていて、地域住民を初め、たくさんの方が参加しています。ここに駅伝大会も加えて、新城を長距離走のまちにしてみてもうでしょうか。今年度から愛知県中学校駅伝大会が再び新城市で行われるようになり、中学生の駅伝に対する意欲も高まってきています。もし新城市民駅伝大会が実施されたときには、駅伝部以外のさまざまな部がチームを組んで参加することもできます。

渋谷凌央議員

同じく鳳来中学校の渋谷凌央です。

駅伝大会では、モリコロパークのような大きな公園の中で行われることが多いです。新城市民駅伝大会では、公道を走れるようにできたらと思います。そうすれば、新城のまちなかを走るコースや長篠城址から医王寺をめぐり、設楽原を走る歴史満喫コース、作手地区の豊かな景観を楽しむことができる自然満喫コースなど、ほかの市にない魅力的な大会が開けると思います。また、出展ブースを設ければ、新城をPRする機会にもなると思います。ぜひ御検討ください。よろしくお願いいたします。

竹内日菜乃議長

請井教育部長。

請井教育部長

市内各地の特色を意識した皆さんの提案は、とてもユニークですばらしいと思います。

今、市内のほとんどの中学校では校内駅伝大会が行われておりますので、中学生の皆さんには身近なものに感じられていると思います。これから小学校でも駅伝大会を開催する予定ですので、児童生徒の体力、運動能力の向上と長距離走のレベルアップが図られること、また各学校での駅伝大会に地域の方のチームが参加していただけるなど、共育の面での広がりが増えてくるともっといいのかなというように感じております。

さて、今、御提案の中にもありました新城マラソンについて参考に見てみますと、ことし1月21日でしたけれども、42回目の大会でした。参加申し込みは3,000人近い方がございまして、総合公園内の会場には出店もあり、そこで新城のPRも行っていました。コースは、新城総合公園内のほか、その付近の公道も使用して行いますので、安全確保のため、警察など関係機関との協議やその手続、また、近隣の住民の方への御協力など、お願いすることもたくさんあり、準備もいろいろございます。また、大会の当日には、体育協会を初めとしたスポーツ団体やボランティア、市の職員など300人を超える大勢のサポートをいただいて初めて運営ができるというような大会でございます。

こういう状況を踏まえまして、駅伝大会を新たなスポーツイベントとして実施するには、今お話ししましたように相当の準備と労力が必要となりますので、体育協会や陸上競技の団体の方々ともお話をした上で実現の可能性を検討するということになるのかなというように思っております。

また、皆さんから御提案いただいたその趣旨につきましては、今、市の大きなイベントとなっております新城マラソン大会の中で生かし、拡充していくことができないかということについても検討していけるといいのではないかなというように思っております。

以上です。

竹内日菜乃議長

石野さん、渋谷さん、夏目さんの質問が終わりました。

次に、2番目の質問者、原田和哉さん、鈴木ちほさん、田中美緒さん。

田中美緒議員

鳳来中学校の田中美緒です。

私たちは、バスでの登下校に不便さを感じています。新城市では、地域の実情に合うように市営バスの運転時間をかんがえてくださっていますが、いまだに不便なことも多いです。冬の期間になると、バスの時間の関係で10分程度しか部活動ができないこともあります。また、今年度から朝練習がなくなったので、部活動がほとんどできていません。鳳来西地区では、12時50分のバスに乗りおけると、16時35分まで待たないといけません。

原田和哉議員

同じく鳳来中学校の原田和哉です。

バスの台数や本数がふえると助かりますが、維持管理費や人件費などがかさんでしまいます。市の予算も限られているので、難しいことはわかっています。そこで、僕たちは地域住民組織によるバスの運営について提案をします。岐阜県恵那市の飯地町では、地域住民がバスを運営し、市がその補助をしています。具体的に市は、ワゴン車を準備したり、運転手の報酬を負担したりしているそうです。また、運転手は町内から募集しています。飯地町は約200世帯が住む小さなまちですが、13名もの運転手が集まり、住民のニーズに応じたバスの運行ができています。市の負担額も1,700万円から660万円となり、1,000万円以上もの経費が削減できています。

鈴木ちほ議員

同じく鳳来中学校の鈴木ちほです。

鳳来地区には約4,000世帯が暮らしています。これは飯地町の約20倍に相当します。したがって、地域組織を運営することは十分可能だと思います。飯地町と比べて世帯数も多いので、運転手の不足などの問題もないと思います。住みよいまちにするために、地域住民組織によるバスの運営について検討していただけたらと思います。

竹内日菜乃議長

竹下総務部長。

竹下総務部長

地元組織によるバスの運営について、御提案をいただきました。市で運行するSバスは、住民の通院、通学、買い物など市民の生活の足として運行しており、朝夕の便は主に児童生徒の通学のために、昼前後の便は通院、買い物などで利用していただいております。ま

た、鳳来地区には沿線の小中学校の先生を初め、PTA役員である保護者の方や区長さんなどに出席していただいている布里田峯線を守り育てる会と秋葉七滝線を守り育てる会があり、この会議で地域の方々と話し合って運行時間の見直しを行っております。

御提案のありました地元組織によるバスの運営についてですが、平成27年4月に国の法律が改正され、地元組織でバスなどの運行を行うことが可能となりました。市といたしましても、地域の意向を踏まえ、地域組織でバスの運営を行う意向があった場合には、地域での体制づくりを初め、さまざまな支援を行っていきたいと考えております。今年度は、八名と鳳来南部地区から、自分たちの地域に合った公共交通のあり方について検討していきたいというお話があり、勉強会を開催したり、地域の皆さんと一緒に、先ほど提案のありました恵那市飯地町のいいじバスの視察へも行ってきたところであり、地域においても公共交通に関する関心が徐々に高まっていることと思います。

地域組織でバスの運行を行うことは、地域で公共交通を守っていく上でも大変すばらしい提案ではありますが、これを実現するためには自分たちで運行を行っていただかなければなりません。このため、まず地域の皆さんでどんなことが困っているか、どのようなバスが必要かを考えていただく必要がありますので、その第一歩として皆さんの声をお父さんやお母さん、また地域の方や先生に届けていただきたいと思います。

竹内日菜乃議長

原田さん、鈴木さん、田中さんの質問が終わりました。

ただいまの鳳来中学校の質問に関連することや、わからなかった点について質問がある場合は手を挙げてください。

新城中学校、夏目基成さん。

夏目基成議員

新城中学校の夏目基成です。

地元の組織によるバスの運営についてですが、いいじバスの視察でどんなことがわかったのか、詳しく教えていただきたいです。よろしくお願いします。

竹内日菜乃議長

竹下総務部長。

竹下総務部長

視察してわかったことは、まず地元の方々がやる気をいっぱいもっていただくということです。先ほども申し上げましたが、バスを運行するのは、地元の方々でつくったボランティアであるとか報酬を払って運転していただく方々です。そうした方々が皆さんのためになるように一生懸命働いていただくというか、一生懸命運行していただくような努力がないと、こうしたバスは成立しません。そこで、まず地元の方々と一緒になって地域のやる気をみんなで持っていただくということ一番重要だと感じました。

竹内日菜乃議長

新城中学校、夏目さんの質問が終わりました。ほかに質問はありませんか。
鳳来中学校、鈴木さん。

鈴木ちほ議員

私たちの声を周りに、大人に届けていくという答弁をいただきましたが、私たちは 24 年度から 28 年度まで、中学生議会で主にバスでの通学についての提案をさせていただいています。また、周りの大人にも相談をしているつもりです。私たち中学生の声をさらに届けるためには、具体的にどのような方法があるのかを教えてくださいたいです。よろしくお願いします。

竹内日菜乃議長

竹下総務部長。

竹下総務部長

なかなか言っているのにうまくいかないという、困っているというお話だったと思うのですが、実は生徒の皆さんが希望するという事で、例えば 27 年度には、土曜日の部活動終了後に家に帰れるバスがないということで、12 時 50 分のバスに変わったというような経緯もございます。したがって、皆さんの声をしっかり届けていただいて、先ほど申しました守り育てる会の中で、みんなと一緒にいい知恵がないかというのを考えていくことで、中学生の皆さんの不便となっている部分を解消していきたいと思っております。今以上に何をやればいいのかというのは、なかなか難しいのですが、まずはお父さんやお母さん、地域の区長さん等にそうしたお話を届けていただきたいと思います。

竹内日菜乃議長

鳳来中学校、鈴木さんの質問が終わりました。ほかに質問はありませんか。
鳳来中学校、田中さん。

田中美緒議員

将来的に自分たちで、つまり地域組織で運行ができるように、まずは市がかじをとることは可能ですか。広報ほのかで情報を発信したり、ハローワークに求人を出したりするなどであればスタートを切りやすいと思います。教えてください。

竹内日菜乃議長

竹下総務部長。

竹下総務部長

地域組織でバスを運営するというのが大前提でございますので、地域の方々が先ほど言ったようにやる気になって行わないと、こういった事業は長続きしません。したがって、市が主導するというより、まず地元の方がそうしたやる気になるということが一番大事ではないかというように思っております。

竹内日菜乃議長

鳳来中学校、田中さんの質問が終わりました。ほかに質問はありませんか。

鳳来中学校、渋谷さん。

渋谷凌央議員

新城市民駅伝大会についての質問です。

近年、新城ラリーや新城トレイルなど、新城市では新しい魅力的なイベントを次々と開催しているように思えます。新城市は、これ以上大きなイベントをふやせる状況にはないということでしょうか。それとも、新城マラソンがあるので、それと一緒に言うほうが効率的ということでしょうか。それならば、マラソンと似ている新城トレイルや奥三河パワートレイルが別日で開催されている理由がわかりません。教えてください。

竹内日菜乃議長

穂積市長。

穂積亮次市長

今の御質問ですけれども、それぞれ主催の団体というのがあります。パワートレイル、それからトレイルレース、主催の団体が違うんですね。主催というのは、責任を持ってその会を運営するという事です。新城マラソンは新城市が運営をしています。それぞれの団体には目的があります。そして、その競技ごとに参加をする方々の対象も違ってきます。ですから、一概に、一緒にすれば大きな大会ができるというものではありません。

それからもう一つ、駅伝大会に関連してですけれども、例えば新城マラソンをフルマラソンにしようじゃないか、今、10キロメートルまでが一番長いですがけれども、ハーフマラソン、42キロメートルの半分ですね。それから、42キロメートルのフルマラソンを実施したらどうだ、こういう意見もたくさんあるのですけれども、実は一番困っているのが、総合公園を一つの主会場にしますけれども、受け入れるだけの駐車場のスペースとか、お客さんを運ぶ手だてがなかなかないということ。こういうものがあってなかなか踏み出せないという現状があります。駅伝大会もすばらしい提案だと思いますけれども、その大会を成功させるために必要なことというのは、実はたくさんあります。お客さんの安全を守ること、混雑をして混乱をしないようにすること、大会の運営がうまくできて、来年もまた来ようと思ってもらえるようにすること、実はたくさんの方がそれを支えてくれて初めて可能になります。ですので、その競技をやりたい、やろうということであるならば、それを支えてくれる人たちをたくさん募って、その人たちの力で運営をするということが必要になりますので、その面も考えていろいろな競技のことを研究してもらいたいと思います。

竹内日菜乃議長

鳳来中学校、渋谷さんの質問が終わりました。

時間になりましたので、以上で鳳来中学校の質問を終了します。

(鳳来中学校議員 自席に)

竹内日菜乃議長

4番目の中学校は八名中学校です。八名中学校の皆さんは、質問席へ移動してください。

(八名中学校議員 質問席に移動)

竹内日菜乃議長

質問は2名続けて行うことを許可します。質問者、井澤蒼翔さん、古賀咲菜さん。

井澤蒼翔議員

僕は八名中学校の井澤蒼翔です。

今年度、僕たちは総合的な学習の時間に防災について学びました。学習していく中で、防災は日ごろの備えが大切だと気づきました。そのためには、各地域の大人の方で防災準備をどう行っていくのかを話し合うとともに、小中学生には自分の身の守り方を学べる場をつくり、互いに防災意識を高めていく必要があるのではないかと思います。

古賀咲菜議員

古賀咲菜です。

災害や地震は、いつどこで起こるのかわからないのに、新城市の各地域や新城市自体でどんなふうを考えているのか、なかなか伝わってきません。しかし、新城市に住んでいる人の多くは、何か災害があったら市が何かしてくれるだろうと思っているのではないかと思います。今後に向けて新城市では、防災に対する備えはどのようにしているのか、各地域ではどのような対策をしたらよいのか教えていただければと思います。私たちが学習して驚いたことの一つに、地震における避難所、避難場所の違いがあることでした。多くの大人の方も理解していないかもしれませんが、このような避難における細かな情報を新城市としてはどのように広報しているのでしょうか。

竹内日菜乃議長

片瀬総務部理事。

片瀬総務部理事

防災に対する意識の向上について、提案と質問をいただきました。

今回、皆さんが防災について、総合学習で取り組んでいただき、そこに気づきがあり、現状のままでいいのかという疑問を抱いたことがよく伝わってまいりました。防災というのは、既にお気づきかもしれませんが、ここまでやれば絶対に安全というものがない、終わりのない戦いともいわれております。こうした難しいテーマに取り組んでいただいたことを大変頼もしく思います。

それでは、大きく二つの質問をいただいておりますので、順番にお答えいたします。

まず、市は防災に対する備えをどのようにしているのか、各地域ではどのような対策をしたらよいかについてでございますが、市の備えとして、例えば食料、飲料水、簡易トイレなどの備蓄や、地域の自主防災会、警察・自衛隊との連携強化のほか、各地域で行わ

れています防災訓練への支援などを行っています。しかし、過去の災害に事前に学びますと、例えば南海トラフ巨大地震のように広域災害が発生した場合には、市役所、消防、警察、自衛隊などの公的な支援機関が発災直後から広域全ての被害に対応するということが不可能でございますので、一人一人が、そして各地域が事前の準備をしていくことが重要になってまいります。

冒頭、意見の中で、日ごろから地域での話し合い、自分の身の守り方を学ぶ必要があるのではないか、いざとなったら市が何とかしてくれるだろうと思っているのではないかという鋭い指摘をされておりますが、ただいまお話ししましたように、発災直後からしばらくは全ての皆さんに支援の手が届かない状況が想定されますので、その間、自分の命は自分で守ることに徹していただかなければなりません。皆さんは総合学習の中で、「自助、共助、公助」という話を聞いたことがあるかもしれませんが、先ほど話しましたように、大規模災害時には、市役所、消防、警察などの公的な支援、つまり「公助」がすぐに届かない可能性が高いことから、みずからの命はみずから守る「自助」、地域でお互いに助け合う「共助」、意識と備えが重要というのが過去の大災害の教訓として、今の防災対策の柱となっています。現在、市では、地域の方とともに、防災講和による自助、共助の意識の醸成や情報伝達の手段の整理、防災用品の備蓄など、自主防災会に支援させていただきながら地域の防災力の向上に力をいれておりますが、質問にあります各地域での対策、その具体的な内容につきましては、それぞれの地域の状況も違いますし、最初にお話ししましたように、防災に、ここまでやれば絶対に安全というものはありませんので、皆様も家族やそれぞれの地域と一緒にみずから考えていただくことも重要だと思っております。

もう一つの質問、避難における細やかな情報をどのように広報しているかということでございますが、災害時における避難情報などの細かな情報につきましては、防災行政無線やホームページ、メール配信システムなどで速やかな周知を行っております。こうした情報が全市民にしっかり伝わるよう、防災講和などで情報伝達の方法の周知にも努めてまいりたいと思います。皆さんも、これを機会に関心を持って情報をキャッチしていただき、御家族や地域の方にお伝え願えればありがたく思います。

竹内日菜乃議長

井澤さん、古賀さんの質問が終わりました。

次に、2番目の質問者、市園 響さん、山本彩生さん。

市園 響議員

八名中学校の市園 響です。

私たちは、毎日学校へ自転車で登校しています。通学路のアスファルト部分がでこぼこになってしまっていて転びそうになったこともあります。実際に私は、12月にアスファルトのでこぼこで転んでしまい、左ひざにけがをしました。また、八名井から通学している友達は、通学路の縁石がなくなってしまう上に歩道が狭くなってしまうので、通行量が多い道を毎回怖い思いをしながら通学しなくてはならないと言っていました。こんなふうに、通学するときにとっても怖い思いをしている人がいます。ほかにも、通学路が細くて自転車とすれ違うときにとっても怖い思いをします。車道は整備されることがありますが、

歩道は余り整備されることがないように思います。車道に加え、歩道も整備してほしいと思います。また、整備する回数もふやしてほしいです。

山本彩生議員

私は山本彩生です。

夏になると、縁石の周りに草が生えてしまい通行しにくくなることがあります。秋になり、歩道に落ち葉があるときに雨が降ると、滑りやすくなります。これは、転んでけがをしやすくなる原因の一つのように思います。また、カーブミラーがないところで突然車が出てきて怖い思いをしたこともあります。八名地区の信号機は歩行者・自転車用の信号がない上、普通の信号も見えにくいことがあります。私たちの通学路が整備されて、安心して通学できるようにするための方策はどのように行われているのかを教えてください。

以上で、八名中学校からの提案を終わります。ありがとうございました。

竹内日菜乃議長

小笠原建設部長。

小笠原建設部長

それでは、通学路の整備についてお答えします。

まず初めに、市園さんがけがをされたということで、お見舞いを申し上げます。1日も早く治るように祈っております。

皆さんが通学路に使われている道路の維持や管理につきましては、国道や県道は愛知県が、市道は新城市が行っています。また、道路の規制や横断歩道の設置などは警察が行っています。道路を安全で安心して利用してもらうために、複数の機関がかかわっています。新城市では、これらの関係機関と小中学校などで組織する通学路安全推進会議を設置し、新城市通学路交通安全プログラムを策定して通学路の安全確保に向けた取り組みを行っています。皆さんも通学中に危ないと感じる場所や不安に思うような場所がありましたら、学校やお家の方を通じて市役所の土木課まで連絡してくださるようお願いいたします。

なお、八名中学校区内の国道 301 号の富岡地内と一畝田地内においては、愛知県により歩道設置が順次進められております。また、歩道設置が難しい通学路については、カラー舗装などで少しでも歩行者、自転車が安心して通れるようにしていますので、お願いします。

竹内日菜乃議長

市園さん、山本さんの質問が終わりました。

ただいまの八名中学校の質問に関連することや、わからなかった点について質問がある場合は手を挙げてください。

八名中学校、山本さん。

山本彩生議員

現在の時点でいいので、カーブミラー、信号機など、具体的にどこにどのようなものが設置、または直されるといったものがありましたら教えていただきたいです。

竹内日菜乃議長

小笠原建設部長。

小笠原建設部長

先ほど言いましたように、交通安全のプログラムによりまして、場所がどこということとは決まっておりますが、今、細かい資料を持ち合わせておりませんので、また、学区内のここここは、このように直しますというような資料をお渡しするようにします。

竹内日菜乃議長

八名中学校、山本さんの質問が終わりました。ほかに質問はありませんか。

八名中学校、市園さん。

市園 馨議員

先ほど、順次進められているとおっしゃっていました。しかし、平成 24 年に設置される予定だった信号機がいまだに先送りにされているところがあります。いつになったら設置してくださるのでしょうか。

竹内日菜乃議長

小笠原建設部長。

小笠原建設部長

信号機につきましては、先ほど答弁しましたように、警察がつくっていただけるということでお願いをしておりますが、警察になりますと愛知県全体の中で順位等がありますので、お願いは引き続きしていきますが、今の時点でいつということは答えられなくて申しわけありませんが、お願いはしているということでもあります。

竹内日菜乃議長

八名中学校、市園さんの質問が終わりました。ほかに質問はありませんか。

八名中学校、古賀さん。

古賀咲菜議員

避難所について質問があります。男女、年齢に関係なく、さまざまな人が集まる避難所ですが、中学生は何を手伝うことができるのでしょうか。避難生活において、一人一人の役割はあると思うのですが、それは誰が、どのように決めているのですか。

竹内日菜乃議長

穂積市長。

穂積亮次市長

災害が起こったときの避難所の運営というのは非常に大切な仕事です。そこで、大体においては、例えば避難所に避難をしてきた方々の中で避難所の運営の中心になるメンバーを決めて、そこに区長がおられれば区長が務めたり、あるいは区長が来られていなければ、どなたか誰かがやる。誰かリーダーを決めて、そのもとで役割分担をしていきます。今、新城市防災訓練の中では、避難所の運営についても、具体的なロールプレイングとあって、いろいろな場面を想定した避難所の運営の仕組みについても訓練をしています。ぜひ皆さんの地区でも、八名地区でも何年か前に中学校でやったと思います。そういうことを繰り返していきますが、その中で中学生ができることといえば、例えば避難所の運営の中の子どもたちや同じ年代の子たちのいろいろな問題をしっかりと聞いて、避難所の運営に役立てていくとか、あるいはお年寄りや体の不自由な方への少しお手伝いとか、いろいろやるのがたくさんできてくると思います。そのときに、必ずやれる能力と体力がある中学生の皆さんは、ぜひ積極的に避難所の運営委員会にかかわれるように、そういう意識を日ごろから持っていただけるとありがたいと思います。

竹内日菜乃議長

八名中学校、古賀さんの質問が終わりました。ほかに質問はありませんか。
鳳来中学校、夏目さん。

夏目くる美議員

私の住む鳳来は、中央構造線の真上にあります。昔からすごく大きな地震が来るといわれていますが、来ていません。大きな地震が起きたとき、地域の皆さんを冷静に避難させるには、大人に近くなってきている中学生も行動しなければいけないと思います。その中学生が地震でパニックになると、周りの方もパニックになると思うので、もっと地域で、もしものための講習の回数をふやし、必ず一度はその講習を受けるようにすればよいのではないのでしょうか。

竹内日菜乃議長

片瀬総務部理事。

片瀬総務部理事

今、おっしゃったような危機感を皆さんが持っていただけると、いざというときも慌てずに済むのではないかと思います。

住民の方々が参加できる防災教室等につきましては、例えば防災安全課に声をいただければ、こういうテーマでしゃべってほしいというテーマがあれば、出かけて説明もします。それから、各地域の自主防災会でもそういった勉強会もやっていたり、市の主催の事業でも勉強会や研修会をやっていますので、積極的に参加してほしいと思います。

強制的にやるといいますと、先ほど自助、共助の話をさせていただきましたけれども、防災意識としては、やはり自分がそうした危機のときにどういう状況になるのかというこ

とをみずから考え、想像して、どのような行動をするのかということを考えていただくことが、本当に非常時、いざとなったときには有効だと思いますので、ぜひそういったところへ積極的に参加していただけるように、私どももPRしてまいりますし、皆さんからもPRしていただければありがたいと思います。

竹内日菜乃議長

鳳来中学校、夏目さんの質問が終わりました。ほかに質問はありませんか。
作手中学校、牛田さん。

牛田珠裕議員

作手中学校の牛田です。

先ほどの駅周辺の明かりが少ないこと、また防犯設備の強化に関連してですが、作手地区においても街路灯が少なく、駅伝練習後の下校時、暗い通学路はとても危険に感じます。暗い夜道を先生方が車のライトで照らしながら帰宅することもあります。そこで、昨年度、中学生議会でも私たちの安心安全のために、比較的費用のかからないイルミネーションを道に沿って取りつけることを提案しました。

2017年12月に大阪府豊中市立第九中学校では、家庭で不要になった電飾を集めて、街灯の少ない通学路を明るく照らす防犯イルミネーションプロジェクトが行われました。電気代は、毎日4時間点灯しても月に数千円とのこと。子を通わせる親としても安心ですとの意見もありました。私たちにとっても実現可能な案だと再認識しました。防犯になり、安全して通えるまちづくりのために、防犯イルミネーションの設置をするのはいかがでしょうか。意見ををお願いします。

竹内日菜乃議長

片瀬総務部理事。

片瀬総務部理事

今の御質問は東郷中学校の質問のときに答えさせていただきますので、後でよろしいでしょうか。

竹内日菜乃議長

作手中学校、牛田さんの質問が終わりました。

時間になりましたので、以上で八名中学校の質問を終了します。

(八名中学校議員 自席に)

竹内日菜乃議長

5番目の中学校は東郷中学校です。東郷中学校の皆さんは、質問席へ移動してください。

(東郷中学校議員 質問席に移動)

竹内日菜乃議長

質問は2名続けて行うことを許可します。質問者、後藤優華さん、倉橋風花さん。

後藤優華議員

東郷中学校の後藤です。

倉橋風花議員

倉橋です。

後藤優華議員

私たちの通う東郷中学校の学区には、飯田線の駅が五つあります。飯田線は私たちが使うことができる交通手段としてとても便利で、身近なものの一つです。部活動の練習試合や大会、そして友達と出かけるときにも気軽に利用できます。このように、なじみがある駅ですが、夕方になり、少しずつあたりが暗くなってくると駅の雰囲気は変わります。もちろん電灯はありますが、その数は少なく、私たちのような女子生徒からすると怖く感じることがあります。市内でも時々不審者が出たということを耳にします。そういう話を聞いたときに、私たちは自分の身を守るために、できるだけ明るい道を選んで通るようにしています。しかし、駅を利用しなくてはならないとき、暗がりを通るたびに危険な目に遭わないかと、とても緊張しています。このような思いをしている高校生もたくさんいるのではないのでしょうか。

倉橋風花議員

近年、高速道路のインターチェンジも完成し、またNHKの大河ドラマの関係や、設楽原の戦いの跡地を見学するために新城市に来る人は多くなってきているように感じます。私たちも実際に参加する設楽原決戦場まつりには、大坂から来られた方もいたそうです。過疎化の進む新城市ですが、今、新城市は大きく成長するチャンスでもあると考えます。インターチェンジができ、楽に車で来ることができるようになったことに加えて、電車でも安心して来られるそんな市になればと思います。私たちが安心して利用できる駅、誰でも安心して来られる駅にするためにも、東郷学区の駅周辺の防犯設備を強化していただけないでしょうか。御検討をよろしくお願いいたします。

竹内日菜乃議長

片瀬総務部理事。

片瀬総務部理事

東郷学区の駅周辺の防犯対策ということで、駅周辺の明かりが少なく不安に感じるため防犯設備の強化をとの御意見でございますが、市でもそうした課題を把握しておりまして、地域と協力しながら防犯対策に努めております。具体的には、市では夜間の街頭犯罪や交通事故を未然に防ぐために、地域で設置する防犯灯の費用の一部を補助しておりますが、この補助事業は毎年それぞれの地域の方の話し合いによりまして、その地域で必要とする場所への設置が行われております。また、防犯灯以外の対策としまして、犯罪を未然に防ぐ効果が高いといわれております防犯カメラの設置事業も行っております。この事業

は、市で防犯カメラを設置する場合、防犯灯と同じように地域の方との話し合いにより設置する防犯カメラに対して補助を行う場合がございます。今回、東郷地区の駅周辺の防犯設備の強化について御意見をいただきましたので、防災安全課から東郷地区の行政区長等にお伝えしまして具体的な協議をしていきたいと考えております。

市では、このように防犯設備に対する事業を実施しておりますが、こうした設備の充実だけで防犯対策が万全だとは考えておりません。東郷地区では、昨年4月に東郷東青パト隊が発足しましたが、こうした地域の人々の目も重要な防犯対策強化の一つでございます。今後も地域の防犯団体の育成、強化を進め、地域の皆さんと一緒に安心して暮らすことのできる環境をつくってまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

竹内日菜乃議長

後藤さん、倉橋さんの質問が終わりました。

次に、2番目の質問者、野澤夢叶さん、七原優人さん。

野澤夢叶議員

東郷中学校の野澤です。

七原優人議員

七原です。

野澤夢叶議員

私たちは、市の施設の利用について提案します。東郷学区には、みんなで集まって遊べる場所が少ないです。そこで、市の施設をもっと気楽に使えるようにならないかと考えました。東郷中学校の学区には、学校が三つあります。しかし、私たち中学生が気軽に遊ぶことができるわけではありません。中学生になった今、小学校に行き行って遊ぶことは控えるようになりました。なぜなら、小学校は小学生が主に使うべき場所であり、私たちが行くと小学生の遊ぶ場所を奪ってしまうことにつながるからです。では、中学校のグラウンドを使えばよいのではと思われるかもしれませんが、しかし、バスケットボールやサッカーがやりたいと思っても、コートもゴールもありません。テニスコートはあっても、勝手に使うことはできません。このように考えると、中学生が気軽に友達と遊んだり、運動したりする場所はほとんどありません。

七原優人議員

また、本年度から市内の中学校では部活動の朝練習がなくなりました。そのぶん、自主的に練習をしようと思っても自由に使える場所がないというのが現状です。だからこそ、もう少し練習をしようと思ったときに練習できる場所が必要なのです。桜淵のテニスコートや総合公園などの市の施設は、申請等をすれば利用できることはわかっています。しかし、使用料がかかったり、使用者が多くて使えなかったり、施設自体が古くなっていたりします。例えば、ほの国こどもパスポートを持っていれば料金がかからなかったり、予約をしなくても使えたりするといったのではないかと考えます。そして、小中学生だけでなく、

市民がもっと運動に親しめるように、総合公園や桜淵公園などを整備していただければと思います。御検討をよろしくお願いいたします。

竹内日菜乃議長

請井教育部長。

請井教育部長

市の施設を気軽に利用したいということでご質問ですけれども、皆さんからの今の提案に関連することといたしまして、先週の2月3日土曜日ですけれども、よりよい地域づくりのための市民まちづくり集会というものが開催されました、そこで公共施設をテーマに取り上げて、さまざまな情報共有と意見交換がされたところでございます。皆さんが通う学校の施設は、学校教育活動と社会体育でのスポーツ開放施設として利用されるというもので、それ以外での利用は制限がされています。学校以外の体育施設でも、中学生が自由に使える場所、施設というものは今お話になったような状況です。

施設を維持する費用に充てるために施設の使用料が設定されています。また、これら施設は多くの方が利用するためのものですので、利用するルールとして、利用の申し込みや使用料の支払いが必要となっています。

ただし、説明いただきましたように、ほの国パスポートにより無料で利用できる市内の施設もございます。具体的には、設楽原歴史資料館、長篠城址史跡保存館、鳳来寺山自然科学博物館、ゆ〜ゆ〜ありいな、B&Gプールの五つの施設になっています。これ以外の施設ではほの国パスポートの新たな対象とするような予定は、今のところございません。

施設整備についてですけれども、施設の整備は、それぞれの管理者が行っております。総合公園は愛知県の施設ですので県が行いまして、市の施設は市が行っています。市が管理する多くの施設については、皆さんが利用しやすいものであるように、今後もしっかりと管理を行っていきます。御質問の中にございました桜淵公園の整備については、旧市民プールの跡地から順次整備していく予定になっております。市内には、さまざまな施設があります。その設置の目的や必要性などについて、今後に関心を持っていただき、いろいろと考えていただければいいのかなというように思っております。

以上です。

竹内日菜乃議長

野澤さん、七原さんの質問が終わりました。

ただいまの東郷中学校の質問に関連することや、わからなかった点について質問がある場合は手を挙げてください。

東郷中学校、野澤さん。

野澤夢叶議員

先ほどお話があったように桜淵の旧市民プール跡地から順次整備していく予定とありますが、具体的な完成の年などは設定されているのか、お聞かせください。

また、まちづくり集会で公共施設をテーマとして取り上げたとおっしゃいましたが、

どのような意見が出たのか、詳しくお聞かせください。

竹内日菜乃議長

古田産業振興部長。

古田産業振興部長

御質問の中に桜淵公園の再整備のことがありましたので、私から御答弁をさせていただきます。

桜淵公園の再整備は、平成 30 年度から 32 年度までの 3 年間で、豊川両岸の公園施設を順次整備していきます。主要な施設整備は、平成 30 年度に旧市民プールを撤去し、跡地に大芝生広場を整備します。平成 31 年度は、豊川右岸の市道と笠岩橋を結ぶ連絡デッキを整備し、ベビーカーやシニアカー、幼児から高齢者まで誰もが豊川の左右両岸を行き来しやすい施設とします。最終年度となる平成 32 年度は、木かげプラザ前の駐車場を舗装するとともに、中央広場に膜屋根を設置し、天候にかかわらずイベントができる施設となるよう現在計画しております。

以上です。

竹内日菜乃議長

三浦企画部理事。

三浦企画部理事

それでは、もう一つ、今、まちづくり集会では一体どのような話だったのかという御質問をいただきましたので、お答えをしようと思います。

2月3日のまちづくり集会は、新城市の公共施設全体の話が出ました。公共施設といっても、皆さんが御存じのように学校施設もあれば、道路とか川とか、いろいろな施設が全部ふくまれています。そういったものを市民の皆さん全体で、どうしていったらいいのかという意見を出し合いました。

このまちづくり集会では、中学生の方も参加をいただきました。少し御質問の内容とは違いますが、こういった遊べる場所というか、中学生の皆さんがいろいろな施設を有効利用したいというような提案については、さまざまところ、例えば東郷中学校では地域の中でもそのような話がありますので、中学生の皆さんが決して無理なことを言っているとは思っておりません。今ある施設をみんなで話し合って有効に使っていただくというような御提案だと思いますので、機会があれば、そういったところへ出向いていただいて、どういったことをしてほしいとか、そういった御意見もいただければ、みんなで、地域で考えていきたいところもございいますので、今後ともよろしく申し上げます。

竹内日菜乃議長

東郷中学校、野澤さんの質問が終わりました。

片瀬総務部理事。

片瀬総務部理事

先ほど作手中学校の牛田さんの質問に関連するかと思いますが、ここでお答えをしたいと思います。

イルミネーションをつけたら明るくて安心ではないかというようなお話でよかったですかね。

行政は、先ほど申し上げたような、設備的な照明灯をつけたり、防犯カメラをつけたり、青パト隊で人の目を強化したりというような対策をいろいろとっています。そういう話をいろいろ聞く中で、明るくても怖いという意見が結構ありまして、やはり人通りが少ないと、幾ら明るくても、人けがないといいますか、民家がないようなところは大変怖いというようなお話があります。ただ単に明るければいいのかというと、それでは防犯カメラがついていても万全ではない。一番いいのは、にぎやかな人通りがあるほうがいいと思うのですが、それは全国的に望めない話でありまして、ただ、今のイルミネーションの話を書きますと、明るいだけでも少し楽しいのかなという気もしますので、そうしたところは防犯という意味でも心理的にいいのかもしれないというように思いますが、行政として、やることはやっていますし、今のイルミネーションの話もその中で検討していきたいと思いますが、まずは地域の方で自発的にやっていただけると大変進むのではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

竹内日菜乃議長

ほかに質問はありませんか。

ないようですので、以上で東郷中学校の質問を終了します。

(東郷中学校議員 自席に)

竹内日菜乃議長

6番目の中学校は新城中学校です。新城中学校の皆さんは、質問席へ移動してください。

(新城中学校議員 質問席に移動)

竹内日菜乃議長

質問は2名続けて行うことを許可します。質問者、鳥山美優さん、鈴木颯太さん。

鳥山美優議員

新城中学校の鳥山美優です。

鈴木颯太議員

鈴木颯太です。

私たちは、新城がより住みやすいまちづくりを進めていくために新城市の美化活動推進を考えました。人口減少問題は、新城市にとって重要な課題となっています。やはり住みやすいまちであることが人口をふやす一つの手だてだと考えています。そこで、Nature with New castle city と銘打って、美化のまち新城をアピールするための提案を行います。

鳥山美優議員

一つ目は、中学生が主体となって市の施設を各中学校区で見回って、老朽化が進んでいる施設や安全性を欠く施設を点検し、取りまとめます。その際、行政の方々にも帯同していただき、大人目からもきちんと見ていただきます。取りまとめたことを行政にきちんと報告できるルートを確立させるために、行政と学校が連携をとる仕組みづくりを進めます。

なお、修繕や改築が必要な場合、その予算についてはきちんと組んでいただきます。ただし、中学生が主体となって取り組むことのできる程度の修繕については、予算をつけていただき、行政の方々と一緒に作業する機会をつくっていただきたいです。

鈴木颯太議員

二つ目は、道路の環境整備を進めていきたいです。例えば散歩をしていて、きれいだなと言ってもらえるように、季節に応じて草花を手入れします。中学生やシルバーの方々が協力して手入れをする仕組みをつくってほしいです。また、散歩専用歩道やサイクリング専用道路などの趣味や生活に根づいた環境づくりも必要です。貸自転車などを主要のポイントに設置したり、常設の休憩所のようなものを整えたりすることで、よりよい環境を目指せると思います。

鳥山美優議員

三つ目は、古民家を初めとする使われていない家屋を改装して格安で売り出し、住民を募ります。初めは格安で賃貸物件にし、10年以上居住してくれるとそのまま不動産として提供するのでしょうか。

鈴木颯太議員

四つ目は、ごみの量を削減のために、市内のあらゆる施設でリサイクルボックスをさらに設置することを考えます。住民一人一人の環境への意識が日常生活の中で向上していくためには、こういう身近な取り組みが必要だと考えます。また、豊かな自然資源を生かして、バイオマスエネルギーなどの自然エネルギーへの取り組みも気になるところです。

鳥山美優議員

最後に、新都市の美化活動の現状と、それに対する取り組みを教えてください。

これで、私たちの提案を終わります。御検討をよろしくお願いします。

竹内日菜乃議長

片瀬総務部理事。

片瀬総務部理事

幾つかいただきましたけれども、1問目を私からお答えさせていただきます。

新都市を住みやすいまちにするために、美化のまち新城をアピールしようとする視点は

大変すばらしいと思います。現在、市には約 900 棟の公共施設がありまして、その全ての施設を確認して、現状のまま維持するために修繕や改築をするには多額の費用が必要となりますが、その予算確保は容易なことではありません。しかしながら、何もせず放置しておけばますます老朽化が進むことは明白です。このことから、市では昨年 3 月に、新城市公共施設等総合管理計画を策定しまして、公共施設の老朽化対策に本格的に取り組み始めたところです。この計画は、施設の老朽度を将来にわたる維持管理費用のほか、施設の利用人数や実際の使われ方、各地域の人口動態推移なども総合的に点検した上で、施設の維持管理費用の縮減と同時に、改めて公共施設とは何かという原点に立ち返りまして、複数の施設機能の統合や、ほかの機能への変更などによって、現在、そしてこれからの市民ニーズに合った施設に変化させていくことも含め、考えていこうというものでございます。これは、行政だけでは進めることができませんので、先ほどお話にありました 2 月 3 日土曜日に開催しました市民まちづくり集会で、公共施設がテーマになりましたが、今後も市民の皆さんと一緒に検討していきたい。その検討の中で、中学生の皆さんに協力していただけることがあれば、ぜひお願いしたいと思いますので、そのときは御協力をよろしくお願いいたします。

竹内日菜乃議長

小笠原建設部長。

小笠原建設部長

それでは、二つ目の道路の環境整備について、答弁させていただきます。

環境美化については、市民の皆さんと一緒にやって取り組んでいくことが大変大切だと考えております。市といたしましても、大変ありがたい御提案だと思います。道路は、最も身近で誰もが常に利用している公共施設の一つであります。その施設が、多くの皆さんの協力により環境美化が保たれているというのも事実でございます。現在は、地域、各種団体、企業の皆さんが、それぞれの地域で草刈りやごみ拾い、花壇の美化等、ボランティアとして環境美化に取り組んでいただいております。今回の御提案は、中学生の皆さんが草花の手入れをお手伝いしていただく仕組みの御提案ですが、道路上での作業となりますので、まず安全の確保が最優先となります。大変ありがたい御提案ですので、具体的な場所などがあれば、今後相談させていただきたいと思っております。

次に、散歩専用道路やサイクリング専用道路などの整備、貸自転車の設置の提案をいただきました。最近健康ブームもあり、ジョギングやウォーキング、サイクリングを趣味とされる方が多くなっていると聞いております。そうした中で、散歩専用道路やサイクリング専用道路は、趣味や憩いの環境整備として魅力的であると思っておりますが、実現となると、なかなか難しい問題もございます。幸いにして新城市には、総合公園を初め、大きな公園等がたくさんあります。まずはこうした施設を有効に利用していただくことも有効な効果だと思っております。

また、貸自転車の件であります。観光課で湯谷温泉駅と、つくで手作り村で貸自転車を運行しております。この利用状況等を見ながら、今後ほかにも広げていくかを検討していきたいと考えております。

続きまして、3点目の空き家の御提案であります。市では空き家を有効に利用するため空き家バンク制度をつくっておりますが、この空き家バンク制度は、売りたい、貸したいという人の空き家情報を、買いたい、借りたい人に提供する制度でございます。市が土地や建物を買って、欲しい人に売ったり、貸したりするものではありませんので、今回御提案いただいたことについては、新しい制度を検討するときに参考にさせていただきます。

竹内日菜乃議長

山本市民環境部長。

山本市民環境部長

それでは、美化のまち新城の四つ目の提案と質問でございますが、初めに、ごみ減量化のためにリサイクルボックスを設置することについて、お答えいたします。

現在、リサイクルできる資源を出すには、各行政区が月に1回行う資源回収で出すことができます。また、日吉地内の資源集積センターへ直接搬入することができます。ほかにも、市内のスーパーやドラッグストアなどでリサイクルボックスを設置しているところもあります。御提案いただいた、あらゆる施設にリサイクルボックスを設置することは、気軽にリサイクルするものを出せるようになりますので、リサイクルを推進するよい提案だと思いますが、それぞれの施設にボックスを管理する人が必要になります。また、経費や設置場所の問題などもありますので、全ての施設にというわけにはいきませんが、現在、設置場所をふやせるよう検討をしているところでございます。

次に、美化活動の現状とそれに対する取り組みについて、お答えします。

現在、環境月間である6月に、市内4か所の会場でクリーンフェスタを実施しています。各行政区や事業所、各種団体に美化活動としてクリーンフェスタへの参加を呼びかけて実施しています。また、それぞれの地域や事業所、団体でそれぞれクリーンフェスタを計画してもらい、年間を通じて美化活動を実施していただいています。クリーンフェスタとは別に、地域で活動している団体が身近な環境を守る活動として美化活動を実施しているものもたくさんございます。中学生の皆さんがクリーンフェスタに参加したり、地域での資源回収のお手伝いをしている地域もございます。皆さんには、学校や地域でこうした活動に積極的に取り組んでいただき、ごみ減量推進や環境美化に貢献していただけたらと思います。

最後に、バイオマスエネルギーなどの自然エネルギーについての取り組みでは、家庭用の太陽光発電システムや太陽熱利用システムについての補助事業に取り組んでいます。また、新城文化会館や小中学校の屋根を民間事業者に貸して太陽光発電を行う事業も実施しています。森林資源を利用するバイオマスエネルギーについては、湯谷温泉の加温施設への薪ボイラー導入に取り組んでいます。

また、現在、2030年を目標年度としました新城市エネルギービジョンを策定中です。ビジョンでは、エネルギーの地産地消を推進し、地域の経済を活性化することを目指します。その取り組みの一つとして、市が電力を販売する会社を設立することを検討しています。

以上です。

竹内日菜乃議長

鳥山さん、鈴木さんの質問が終わりました。

次に、2番目の質問者、松井麻矢さん、松井萌恵さん、夏目基成さん。

松井麻矢議員

新城中学校の松井麻矢です。

松井萌恵議員

松井萌恵です。

夏目基成議員

夏目基成です。

松井麻矢議員

私たちは、新城市のPRをもっと進めて、他地域からたくさん人を呼ぶための方策について考えました。これも美化活動の提案と同様、人口減少問題に対して危機感を持ったことが考え始めたきっかけです。これから新城市のPRについての提案を行います。

一つ目は、魅力的な1日づくりです。現在、新城市には、新城ラリーやのんほいロット、新城納涼花火大会といった大きな地域密着型イベントがあります。どれも、とても魅力的なイベントだと思います。しかし、人口減少に歯どめがかかりません。そこで、新城市で1日中過ごし、楽しめるイベントをさらに企画したいと思いました。

松井萌恵議員

まず、さまざまな体験ブースやワークショップを開設し、家族連れでも楽しめるようにします。新城といえば、桜や歴史です。桜のストラップや本のしおりづくり、桜もちといった、桜にちなんだものをつくったり、長篠合戦等を生かし、かぶとの試着や鉄砲を持つ体験をしたりするなど、ブースを多くつくり、盛り上げます。食事は、新城市の特産品をどっさりを使い、バーベキューを盛大に行います。これは、おいしい新城の特産品を味わっていただきながら、新城市をアピールする絶好の機会です。さらに、新城市にゆかりのある方を講師に講演等をセットで行うことができれば、たくさん人が来ると考えます。魅力的な1日づくりでのゲームや体験などを小中学生を中心に考えてもらうのも、地域に対して愛着を深めるいい機会となると思います。自分が考えたゲームや体験が採用され、具現化されると、きつとうれしく感じると思います。

夏目基成議員

二つ目は、PR動画の内容の募集です。全国的にも市町によって動画を作成し、おもしろおかしく自分の市町をPRしているところがあると知りました。もっと新城も、新城の動画を公募し、それを生かし、発信する仕組みをつくるべきです。採用された動画につ

いては、日本語版だけでなく、英語版や中国語版など外国にもPRしやすいように工夫するとよいと思います。

三つ目は、外国人誘致です。外国人観光客を呼ぶために、外国人が来やすい空港からの直通バスの整備を推進します。バスの中では新城市の歴史や特産品を知ってもらうようなガイドを設置し、より新城の魅力もPRできるようにします。また、新城に昔からある旅館と行政がタイアップして、新城の旅館のPRも行えたらとてもよいと思います。

最後に、新城市の観光における広報活動の現状と、それに対する取り組みを教えてください。

これで、私たちの提案を終わります。御検討をよろしくお願いいたします。

竹内日菜乃議長

古田産業振興部長。

古田産業振興部長

3点御質問をいただきましたけれども、私からは、1点目と3点目をお答えさせていただきます。

まず1点目の魅力的な1日づくりということですが、御提案をいただきました、他地域からたくさんの人を呼ぶための魅力的な1日づくりについては、年間を通し、数多いイベントを実施している中で、新しい新城のイベントをすぐに開催することは難しい状況ですが、現在開催しているイベントへの参加者をふやす方法や、イベント内容について、中学生の皆さんの柔軟な発想と一緒に考えていけたらと考えております。イベントも回数を重ねると、どうしても内容のマンネリ化の傾向が出てまいります。新城市の魅力について、発想やアピールの仕方は、固定概念を持った大人よりも、柔軟な発想を持った皆さんのほうがすぐれているかもしれません。皆さんの多くが、スタッフとして末永く続くイベントを開催していただけることを希望しています。

3点目の外国人観光客誘致のための空港からの直通バス運行ですが、現在新城市を訪れる外国人観光客はまだまだ少数ですが、訪れる場合は交通アクセスが課題となっており、空港からの直通バスが運行すれば、利便性は向上します。しかし、訪日外国人旅行者が新城市で何をどう楽しむのかが一番重要な部分となりますので、外国人観光客の目線で新城市の魅力をつくり、発信することが第一に必要となります。空港からの直通バスに関しては、運行時間、本数、費用負担など、たくさんの課題があり、すぐに取り組むことは難しいですが、観光プログラムの創出や魅力的な情報発信とあわせ、検討していきたいと考えています。

次に、外国人観光客に対する広報活動の現状と取り組みについて説明します。

新城市では、観光ガイドブックを、英語、中国語など4か国語でそれぞれ作成しており、東京スカイツリー等、外国人観光客が多く集まる場所での観光PRイベントで配布しています。そのほか、観光PR動画の英語版を作成し、YouTubeにも投稿しています。また、本年10月に開催される世界ニューキャッスルアライアンス会議を契機に、外国人観光客の拡大につながるよう、外国人観光客向けのモニターツアーを今週末に開催します。このツアーは、ブログ、SNSでの情報発信力を持つ外国人を対象としており、ツ

アー参加者がツアー中に投稿する記事が世界中に拡散し、新城市の知名度の向上と誘客につながればと期待しているところです。

以上です。

竹内日菜乃議長

松本企画部長。

松本企画部長

私からは、PR動画についてお答えをします。

提案していただいたPR動画の公募は、おもしろいと思います。市では、平成28年11月と平成29年8月に、東京スカイツリーでPRを行っています。このPRで、バーチャル手筒花火体験コーナーを設けましたが、体験された多くの方から好評で新城市を訪問したいという意見をいただきました。新城市だけでなく、新城のことを思う多くの人があるいろいろな手法で新城をPRすれば、新城の知名度もさらにアップするものと思います。シティプロモーションは、これだけやっていればいいというものではありません。年齢や性別、地域、国などターゲットを絞ってするPRもあれば、不特定多数の人に向けたPRもあります。提案いただいたPR動画の公募と発信する仕組みについては、現在市にあるPR動画の発信方法も含めて検討していきたいと思います。ありがとうございます。

竹内日菜乃議長

松井麻矢さん、松井萌恵さん、夏目さんの質問が終わりました。

時間になりましたので、以上で新城中学校の質問を終了します。

以上で、一般質問は全て終了しました。

これもちまして、平成29年度新城市中学生議会を閉会します。

本日は、新城市若者議会から、中学生議会を経験している加瀬川雄貴さんにも来ていただきました。加瀬川さんから、中学生議会へメッセージをお願いします。

加瀬川雄貴若者議会委員

若者議会第3期委員の加瀬川です。きょうは、本当に興味深くてすばらしい発表を聞かせていただき、ありがとうございました。

実は私も5年前、第1回目の中学生議会に参加させていただき、そのときは高齢者が集える場をつくりたいということや、おいしいグルメで新城の観光を盛り上げたいという提案をさせていただきました。そして、観光を盛り上げたいという思いから、今は若者議会で観光のチームに所属し、観光パンフレットの作成やレンタサイクル事業などを行っています。また、SNSを利用した「しんしろフォトコン」を開催し、現在、新城市図書館の1階で応募いただいた写真を使って写真展を行っています。このように若者議会では、自分たちのやりたいような政策を、実際に若者を中心にして進めていくことができます。

また、先ほど外国人をターゲットにした事業を提案された発表が幾つかありましたが、新城市は世界の新城という名前を持つ地域とつながっていて、昨年12月に私もプロジェクトチームやコアチームのメンバーとして参加させていただいたのですが、その世界の新

城から日本の新城に集まって英語で会議をするというイベントがありました。中学生議会、若者議会、そしてニューキャッスルアライアンス、これだけではないと思いますが、若者が活躍できるまちは、ほかになかなかないのかなと思います。ぜひあした学校へ行ったら、きょう皆さんがここで話されたこと、あるいはほかの方の発表を聞いて思ったこと、ぜひ友達とシェアしてみてください。せっかくいただいているこのチャンスを生かして、若者議会、中学生議会だけでなく若者みんなで、大人の方の御協力もいただきながら、みんなで協力して、ずっと住み続けたいと思えるようなまちをつくっていきましょう。きょうは本当にありがとうございました。

竹内日菜乃議長

ありがとうございました。

それでは、本日御出席していただいた新城市議会、村田副議長から御挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

村田康助市議会副議長

皆さん、お疲れさまです。きょうは、千郷中学校に始まり、作手、鳳来、八名、東郷、新城と、若い皆さんの柔軟な頭脳が生かされ、多大な方面の御意見をいただきまして心から感謝いたします。

中学生の皆様が、新城市の本会議場を利用してこのような形で体験されるということは非常にいいことだというように考えておりますし、我々も皆さんの柔軟な意見を、学校または地域の皆さんと意見を集約していただいて、それらが反映できるように議会に届けていただければありがたいというように考えております。何にしても、私たちは皆さんと市民の意見を集約して、ここに上がってきたものを審査し、決定していくという組織でございます。そういうものをこういう若い世代の皆さんが体験できたということは本当にいいことだと思います。今後とも皆さんの活躍を期待しながら議会からのお礼といえますか、感謝の気持ちとさせていただきます。きょうは本当にお疲れさまでした。

竹内日菜乃議長

ありがとうございました。

最後に、穂積市長から御挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

穂積亮次市長

市長の穂積です。

中学生議会の皆さん、きょう1日、本当にお疲れさまでした。この議会に至るまでには、大変長い間の準備をしてきたと思います。先生方といろいろ議論をしたり、市役所の担当職員とやりとりをしたりしながら、練りに練った質問をもってこの場に立っていただけたと思います。それぞれの思いのたけを十分に言えたでしょうか。また、答弁を聞かれてどのように考えられたでしょうか。納得がいった答弁もあれば、よくわからなかったという答弁もあれば、同じことばかりを言っているのではないかと思うような答弁もあったかもしれません。あるいは、これから希望が持てる、とっかかりとなる答弁もあったかも

わかりません。いずれも、我々も皆さんの質問をいただいて、部長会議というものを開いて、どのように答弁するか一生懸命考えた末でのことでもありますので、これが現在の新城市役所のお答えのありのままです。それとともに、今、加瀬川さん、若者議会のメンバーでありますけれども、話がありました。加瀬川君は第1期の中学生議会のメンバーでありましたけれども、それから約6年がたちました。この中学生議会が最初に始まったそもそものきっかけは、実は2011年、平成23年ですけれども、東日本大震災がありました。君たちがまだ小学校に上がったくらいかなと思いますが、記憶にある人もいるように、その大震災が起こって、原子力発電所がとまって電力が非常に逼迫して、計画停電とか、そういうことが日本中で起こりました。そこで、新城市でも節電、それからさまざまな省エネルギーを考える市民節電所というのが立ち上がったのですけれども、その際に、市内の六つの中学校の代表に呼びかけ、市役所に来てもらい、私ども市長、それからほかの担当職員と、それぞれの中学校で何ができるかを考えてほしい。こういうことから中学生の環境会議から始まって、それが次の年に中学生議会になりました。ということは、きょう、防災のところで少し出ましたけれども、中学生はいざ災害が起こったときには、守られる立場だけではなくて守る側に、子どもたち、より小さな小学生やお年寄りたちを守らなければいけない、守るべき立場になるというようにもいわれています。特に新城のように高齢化が進んでいるといわれていますが、昼間は多くの大人たちが働きに外へ出ています。例えば昼間、災害が起こったときには、地域に残されているのは、お年寄りと子どもたち、そして皆さん中学生たちが主体です。そのときに中学生がどう行動するかというのは、その地域の今後その後を決める大きな要因なのです。ですので、中学生は何かの役割を果たせるはずだ。そういうことから、この中学生議会が始まり、そして、その中学生議会の体験を経て、日本で初めての若者議会というのが新城市で誕生しました。そうやって、世代から世代へ、先輩から後輩へと引き継がれてきたのが、この中学生議会です。それだけに、6回の中学生議会を経て、皆さんの質問も非常に練り上げられたものになったり、あるいは自分の身の回りのことだけではなくて、市全体のことを考えた提案をされたり、あるいは2年前、3年前の学校の先輩たちがした質問を見ながら、それはその後どうなったのだろうか、行政ではどのように取り組んできたのだろうか、そういうことをしっかりと踏み込んで議論をするような質問もしていただけたと思います。そういう意味で、この中学生議会は、新城市のまちづくりの大きな柱の一つになろうとしていると感じました。そういう意味で、皆さんの熱意に心から感謝をしたいと思います。

もう一つだけ言わせてください。皆さんは、いろいろクラスメイトや部活動などをやっていて実感していると思うのですが、人の気持ち、感情というのは、必ず伝染することがあります。不安や恐怖、それも伝染しますし、希望やいろいろな楽しいことも伝染していきます。きょう、多くの皆さんが人口減少、過疎化、これから新城は大丈夫なのだろうかということをおっしゃいました。人口減少に一番おびえているのは誰でしょうかね。人口減少を一番不安だ不安だと言っているのは誰でしょうか。それはほかでもなく、我々のように人口がふえる時代しか知らなかった大人たちです。人口がふえていって、日本が豊かになった時代しか知らない大人たちが、これから人口が減っていくということにおびえ、不安に駆られ、新城は大丈夫だろうか、消滅可能性都市なんていわれているけれども大丈夫だろうか、こんなことを思っています。それが、時には知らず知らずのうちに皆さんの

心に伝染をしているかもしれません。しかし、私は、君たちはそういう不安にとらわれる必要は全くないと思っています。もちろん人口が減ることも問題でしょう。過疎化も問題でしょう。でも、皆さんはそれぞれ自分の人生に希望を持って、夢を持って立ち向かっていこうとしているのではないのでしょうか。その集まりが日本の国民であるとしたら、これからの時代の中で希望を持って、自分なりの人生を精いっぱいやっていく。それが、日本の国民の人口が減った時代であろうと、ふえる時代であろうと、そのときなりに精いっぱい生きていくのだと思うのですよね。だから、人口が減っていく、これからの時代の新しいまちづくりというのは、君たちの新しい価値観で取り組んでいくこと、大人たちの不安に拘束される必要は全くなくて、君たち自身の胸の中で描いた夢を思い切りキャンパスにその絵をかき上げていただく。それが、新城市のこれからのまちづくりです。我々は、そのためのキャンパスを用意します。そして、人口がふえる時代しか知らなかった大人たちがきちんとけじめをつけて、君たちにその負担を負わせないようにするのが我々の役目です。その役目は、大人たちがしっかり果たしていくので、皆さんは皆さんの夢を思い切り描き上げていただきたいと、こんなふうに思いました。これからの新城のまちは君たちの肩にかかっていること、そして、我々は君たちの肩に余計な負担をかけないように全力を尽くすので、みんなも自分たちの後ろに気をとられることなく、前を向いて進んでいってほしいと思います。それが、これからの新城の中学生議会にその気持ちが引き継がれていくこと、そして、また大人に少し、来年、再来年になれば、君たちも若者議会に入る資格を持ちます。そして、若者議会の卒業生が新城市議会に入りました。そんなつながりがこれから続いていくようなまちであれるように、みんなと一緒に頑張っていきたいと改めて思いました。皆さんの長時間の苦勞に感謝をしながら、この体験を後輩たちにも伝えてほしいと思います。ありがとうございました。

竹内日菜乃議長

ありがとうございました。

本日は、平成 29 年度新城市中学生議会の議長を務めさせていただき、まことにありがとうございました。この議会で普段思っていたことを質問、提案でき、これからの新城市がもっといいものになると思います。そして、これからも新城市の未来のために意見を考え続けていきたいと思いました。

本日は、ありがとうございました。

吉林まちづくり推進課長

以上をもちまして、平成 29 年度中学生議회를終了します。大変お疲れさまでした。

午後 3 時 5 1 分 閉会